



3月8日 日曜日

発行所(〒371-8666) 前橋市古市町1-50-21 上毛新聞社 (総合)027-254-9911 (編集)027-254-9933 (広告)027-254-9944 (販売)027-254-3131 (事業)027-254-9955 ©上毛新聞社 2015年

陽光恵まれ全国4位

日照時間

植物や農作物の生育など暮らしにさまざまな恵みをもたらす日照。平野部で年間2000時間を超える本県の日照時間は全国でも長い。最近では太陽光発電の適地として、大規模発電施設(メガソーラー)の建設が増えている。ただ、電力会社の送電網が対応できず接続が制限される問題が生じ、電力の買い取り価格も年々低下。せつかくの日照の長さを自然エネルギーの推進に生かすため、施策の見直しが必要との意見もある。

■平野部2000時間超

気象庁のデータをみると、前橋地方気象台の年間日照時間の平年値(1981~2010年)は2111

発電活用に逆風 「小規模」転換も

0.9時間で各都道府県の主な気象台別では4位。同気象台によると、日照時間は一般に降雨量が少ない地域で長く、沿岸部に比べ雨雲の発生量が少ない内陸平



野部で伸びる傾向がある。県内で日照時間を観測する13の地域気象観測システム(アメダス)別に平年値を見ると、前橋のほか伊勢崎2107.3時間、沼田2093.4時間、上里見(高崎)2070.8時間、桐生2054.9時間、館

林2035.0時間と平野部を中心に2千時間を超えている。藤原(みなかみ)1279.5時間、西野牧(下仁田)1738.0時間など冬場の北西の風の影響で雪雲が発生しやすい西部や、天候が不安定になりがちな山沿いでは、平野部に比べぐっと短い。

■接続制限が影響

国の再生可能エネルギー普及方針を追い風に、本県では長い日照時間と地代の安さに目を付けた企業が統

々とメガソーラー事業を展開する。遊休地活用で誘致に乗り出す自治体もあり、昭和村生越の村・民有地では関東最大規模のメガソーラーが計画されている。ただ、電力の買い取り量が急増した結果、送電線の負担が過大になり、東京電力群馬支店は昨年4月から一部地域で50誌以上の施設の接続を制限している。買い取り価格も下落し、非住宅用の全量売電で現在の1.32円(税抜き)から1.27円(税抜き)に下落し、7月に27円と大幅に下がる見通し

で、太陽光発電の普及にブレーキが掛かりそう。自然環境や景観への配慮から、自治体が独自にメガソーラーを規制する動きもある。高崎市は新年度、観音山丘陵など3カ所を特別保全地区に指定し、建設を計画する事業者には事前協議を義務付ける。環境カウンセラーの片亀光さん(玉村町)は「再生可能エネルギーの活用は、地球温暖化防止に不可欠」と話している。

とした上で「群馬の長い日照時間を生かさない手はない。送電網や自然環境に負荷を掛けない、小規模な発電施設を推進する施策に切り替えるべきだ」と話している。(正田哲雄)

順位	市町村	日照時間(時間)
1	府	2,183.0
2	知	2,154.2
3	崎	2,116.1
4	橋	2,110.9
5	岡	2,099.0
6	島	2,092.9
7	屋	2,091.6
8	山	2,088.8
9	阜	2,085.1
10	津	2,065.6
38	江	1,696.2
39	岡	1,684.1
40	沢	1,680.8
41	取	1,663.2
42	瀧	1,642.5
43	井	1,619.4
44	形	1,613.3
45	山	1,612.1
46	森	1,602.7
47	田	1,526.0
	橋	2,110.9
	崎	2,107.3
	田	2,093.4
	高	2,070.8
	崎	2,054.9
	生	2,035.0
	林	1,832.2
	恋	1,765.9
	条	1,738.0
	下	1,712.3
	仁	1,659.7
	田	1,471.7
	流	1,279.5
	津	
	草	
	津	
	草	
	み	
	な	
	か	
	み	
	藤	
	原	
	(
	み	
	な	
	か	
	み	

※日照時間はいずれも1981~2010年の平均(県内は一部開始年が異なる)